

ネットワーク情報学部チーム健闘

ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト アジア予選7位 強豪19大学に伍して

ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM/ICPC=大学生を対象に世界的規模で開催するプログラミングコンテスト)の全角)、05年度アジア地区予選・台北大会に、ネットワーク情報学部チーム(Inspiration Over Flow)が出場。荒木博志さん、倉品裕多さん、中村哲也さんのメンバー3人は、9問中3問を正解。中国、台湾、韓国などの理工系大学トップクラスが多数出場する中で大学別7位(チーム別13位)に入賞する快挙を成し遂げた。



アジア予選台北大会で健闘の左から1人おいて倉品さん、中村さん、荒木さん

世界大会への切符を争う地区予選は、アジアでは11カ所で開催。台北大会は10月30日、国立台湾師範大学で開かれ、20大学50チームが出場、日本からの出場は本学だけだった。

優勝は、前年度世界一の上海交通大学。専大以外の10位まで(国立台湾大学、KAIST=韓国=など)はすべて世界大会の出場経験がある。また昨年の台湾大会に東京大学が出場し大学別9位に入賞。今回はそれを上回る成績となった。

チームは2年連続同じメンバーで、息の合ったチームワークを発揮。4年次生として3年次生2人を引っ張った荒木さんは「山を越えて“ハマッタ”という感じでした」と言葉少ないながらも喜びを語った。

倉品さんは「解説ミスがあって反省しています。この体験を来年につなげたい」。3年連続でチャレンジした中村さんは「技術や発想力のほか時間の使い方、サポート法などを学んだ。いい体験でした」と成果を振り返った。

コーチの松永賢次助教授は、予想以上の成果に「彼らの経験を後輩につなげていくことが大事。出場者の輪を広げていきたい」と期待している。

飛行船ロボットコンテスト

モデリング部門連覇 3年次生「ねこねこ専FU」

第2回MDDチャレンジ(飛行船ロボットコンテスト)に飯田周作ネットワーク情報学部助教授指導の全角)「ねこねこ専FU」が出場第1回大会に続きモデリング審査部門でエクセレントモデル賞(最優秀賞全角))を受賞し、飛行部門をあわせた総合順位でも3位と健闘した。



飛行船の前に「ねこねこ専FU」のみなさん

同チームはネットワーク情報学部3年次演習「プロジェクト」の一環として、CATS、富士通、富士通デバイスの3社と協同で飛行船のモデルの作成、ソフトウェアの開発を行ってきた。

コンテストは10月17日、東京・江東区の日本科学未来館で、第1回を上回る11チームが参加、大学チームはほとんどが工学系という中、文系チームの「専FU」はソフトウェア開発で最も重要とされる設計で高く評価された。特にプレゼンテーションでは「ほぼ満点に近い評価」(飯田助教授)だった。

プレゼン担当のチームリーダー、片山敬介さんは「どう分かりやすく的確に伝えていくかを心がけ、画面には図やキーワードを出し、説明は極力、口頭できるようにしました。設計図を解説する要の部分で評価され満足です」と喜びを語った。

飯田助教授は「技術的な面はもとより、チームワーク、コミュニケーション力や問題解決能力などを養うとこ

ろにプロジェクトの意義がある。文理融合の学部ならではの結果が出たと思います」と評価している。

他の学生メンバーは、今村佳那子さん、石丸麻理さん、滝侑也さん、加山未来さん。

「空き店舗アイデアコンペ」

優秀賞—商学部・関根ゼミの3人

「アートだよ！ 全員商店街」

川崎市主催の「商店街空き店舗アイデアコンペ」で商学部・関根孝ゼミの太田黒香織さん、長松紘史さん、寺澤洸将さんのグループが提案した「アートだよ！ 全員商店街」が優秀賞を受賞、賞金5万円を獲得した。

流通・マーケティングが専門の同ゼミで「商店街」の研究を進めていた3人は、関根教授にコンテスト参加を勧められ、半年間かけてプランを練った。

商店街に人を呼び込めるモノとして「映画」を思いついたのは寺澤さん。関根教授から『下高井戸シネマ』を通じて、活性化に成功した『下高井戸商店街』を見てきてはどうかとアドバイスされ、各地でフィールドワークを実施。祖師谷銀座(東京・世田谷区)、小田銀座(川崎区)プレーメン通り商店街(中原区)などを回り「元気がある商店街は、青年部のような若い世代も積極的にに関わり、組織がしっかりしている。また環境問題に取り組むなど、次世代につなげていこうという意識を持っている」と感じた。

プレゼンを担当した太田黒さんは「人が温かいのが商店街の良さ。カメラ片手に歩いていると『何してるの』と気さくに声をかけてくれ、コミュニケーションの大切さを感じました」。

自主制作映画で町が活性化した下関出身の長松さんは「住民がエキストラとして出演したり、スタッフが町で買い物をしたり、観客がその町を訪れたり、映画には2次的3次的な効果が見込まれます」とプランの効果を語る。

住んでいる町や生田キャンパスのある向ヶ丘遊園駅近隣、出身地の商店街の活性化も気になるようになってきたという寺澤さんは「優秀賞の結果以上に、得たものは『プライスレス』です」と笑顔で話してくれた。

商業振興と街づくりについての著書も多い関根教授は「経済的合理性だけでなく、歴史・文化なども含めた総合基準と『住みやすさ』が『街づくり』の大切な視点。物販だけでなく、文化的サービスの提供が必要で、今回のアイデアはアート、特に映画(上映や制作)を結びつけた点が評価されたのでは」と語っている。



前列左から関根教授、寺澤さん。後列左から太田黒さん、長松さん

「かわさき企業家賞」受賞

堤由惟代表の(株)アブサードスピアの音楽配信システム

「かわさき起業家オーディション ビジネス・アイデアシーズ市場」の第37回選考会で、ネットワーク情報学部3年次の堤由惟さんが代表取締役を務める(株)アブサードスピアのプラン「ソーシャルネットワーキング型音楽配信システム『bee Music Bowl』」が、かわさき起業家賞と日本起業家協会賞をダブル受賞した。

同オーディションは、さまざまな分野のビジネスの「種」(シーズ)と川崎市の融資制度やベンチャーキャピタルとの出会いの場を提供、アイデア実現をサポートするもの(アブサードスピアの紹介は第421号既報)。

◀学部発信-経済学部-▶

「新カリ」導入から4年 学びの道標「コース制」

◆経済学科◆

02年度から導入された経済学科の新カリキュラムも4年目を迎えました。カリキュラム改正の中心は以下の二つでした。第一には導入科目から基礎科目・共通科目・展開科目へと体系的に科目を配置し、とりわけ導入科目に力を入れたこと。第二にはコース制を導入したことです。

導入科目の中心はひとクラス20～21人程度で行う「入門ゼミナール」です。図書館の使い方、端末室の利用の仕方、レポートの書き方、プレゼンの仕方などが標準的なメニューですが、今年度からは新しい試みとしてキャリア教育のための時間も組み込みました。担当教員はクラス担任として、学業のみならず大学生活全般に関わるさまざまな悩み事などの相談にものります。

コース制は、ともすれば易きに流れやすかった学生の履修選択をそれぞれの目的に沿って体系化する、という意図で作られた学びの道標です。「歴史と発展」、「福祉と環境」、「企業と情報」、「市場と政府」という四つのテーマにしたがって学びます。

国際経済学科と経済学科はそれぞれ隔年で公開講座を開講しております。経済学科は昨年「人と時代と経済学」と題して6人の教員による連続講演を開催しました。来年度も公開講座を企画しております。多くの皆様の聴講をお待ちしています。

(石塚 良次)

異文化体験で人格形成 海外研修、NGO論も

◆国際経済学科◆

国際経済学科は、グローバル化を背景に97年に誕生しました。経済学の基本科目に加えて、(1)世界主要地域の地域研究、(2)主要地域と日本との比較研究、(3)地球規模の諸問題を取り扱う問題群研究を三本柱として、ユニークなカリキュラムを展開しています。もちろん、その前提となるコミュニケーション能力も重視しており、多様な地域言語科目を提供しています。海外協定校からの客員教授が担当する英語による経済学のクラスも、このような狙いによるものです。

しかし教員の努力だけでは実現できないのが、学生の皆さんの異文化体験です。若い時の異文化体験は、たとえそれが短期間であっても、人格形成に重大な影響を及ぼすほど貴重な体験となります。そのために国際経済学科では開設以来、毎年多くの学生を長・中期留学や短期語学研修に送り出してきました。

本年夏には、04年に新設された「海外特別研修」の現地研修が実施されました。飯沼健子助教授と共に5人の学生がラオス、タイで充実した現地研修を体験しました。また、狐崎知己教授が担当する「NGO論」でも5人の学生がNGOのスタディ・ツアーに参加し、メキシコ、インド、東ティモール、タイに赴いて、ストリート・チルドレンから津波被災者の支援に汗を流し、社会開発の仕組みを学ぶことができました。来年度には「海外特別研修」をもうひとクラス設け、皆さんの異文化体験の機会をさらに増やしていく予定です。

(大橋 英夫)